

ICPC 開催マニュアル

1 概要

ICPC の開催に関するマニュアルです。随時更新予定。主に学内で開催する

2 準備日程

- 前年度 10 月 11 月: 教授陣との打ち合わせ
- 開催年度 4 月: 新入生ガイダンスでの告知
- 開催年度 5 月末: ICPC アジア予選告知開始
- 開催年度 6 月上旬: 授業内告知、説明会、登録会
- 開催年度 6 月下旬: 初心者講習会、模擬戦感想会
- 開催年度 7 月中旬: ICPC アジア予選

2.1 10 月 11 月 教授陣との打ち合わせ

ICPC の開催に関する教授陣との打ち合わせを行う。目的は情報科学科で開催する場合その承認を得ること、監督を担当する教授陣の確保の二つである。

2.1.1 情報科学科での開催承認

oh-o meiji!上に ICPC 開催の広告を載せる際や新入生ガイダンスで告知するのに必要。その他いろいろメリットがあるため開催承認を行うことを推奨する。成績優秀者への報償は毎度教授陣有志の寄付に頼っているため、情報科全体で開催することで一人当たりの負担が減るので好ましい。相談は学科長にする必要があり、2025 年度は飯塚先生に相談する必要があった。毎年変わる可能性があるため学科長の確認はその都度とするようになる。新年度が始まるタイミングで変化することもある。教授に相談する際は、事前にメールで

アポイントメントをとるとよい。話す内容は以下の通り。

- ICPC の概要
- ガイダンスでの告知について
- ICPC の概要を oh-o meiji!上にお知らせすることについて
- 成績優秀者への報償について

なお、情報科学科で開催するにあたって、成績優秀者への報償が問題になる可能性がある。もし報償をなくさないと承認できない場合、報償をなくすことは大いに検討に値する。報償がなくても ICPC に参加する学生はいるため、開催自体は可能である。これについては開催にあたっての問題を参照。

2.1.2 監督の確保

ICPC の監督は教授陣が担当する。監督がいないと ICPC を開催できないため、例年松田先生と宮島先生に担当してもらっている。2026 年度は西郷氏からお願いすることになると思われるがその後の年度を考慮するとコーチ担当者、または進行役を務める補佐が直接頼み込みに行くのがよいと思われる。先と同様に事前にメールでアポイントメントをとることを推奨する。

2.2 4月 新入生ガイダンスでの告知

情報科学科で開催することができると新入生ガイダンスの際に ICPC について告知することが可能になる。1 年生全員に周知できる機会でありかなり貴重。資料を作り、ガイダンス担当の先生に原稿を渡して読んでもらってもいいし、直接説明してもよい。この確認は情報化学科での開催承認の時に話すようとする。手順としては事前の打ち合わせでガイダンス担当の先生に

3 役割分担

3.1 コーチ

学生が担当する必要がある。主に ICPC の運営、学生のサポートを行う。

3.2 監督

教授陣が担当する。問題回答中の不正行為の監視、運営への報告を行う。

3.2.1 コーチ補佐

ICPC に割り振られる役割ではない。コーチの仕事を補佐する。ICPC の選手にならない限り試験中の部屋に入ることはできない。

4 開催にあたっての問題

4.1 成績優秀者への報償

情報科学科で開催することに対して最大の壁になるものである。基本的に教授全体から寄付を募れることはないとみてよい こちらから直接頼み込みに行く必要はない。ただし情報科主体の開催そのものと寄付を全体からもらうことはあくまで別問題であるため特段全員から寄付を募らなくてもよい。なお寄付を渋る教授陣の意見としては情報科学科でない学生に報償がわたってしまうことが挙げられている。しかしこの他学科からの参加はこの ICPC の大会を開くにあたって大いに歓迎するものであって、仮にこれを情報科学科の生徒だけに絞るのは開催の意図に反してしまう。このためこの問題は基本解決できず、今後もあくまで有志からの寄付に頼ることになると思われる。